

令和5年度「山形学」第2回講座 実施報告書

- ◆日時：8月19日（土）13：30～16：00
- ◆会場：遊学館3階第1研修室
- ◆テーマ：大テーマ「山形の歴史的成り立ち」
第1回テーマ「最上の歴史的成り立ち」
- ◆講師：伊藤和美氏（最上地域史研究会会長）
三浦和枝氏（最上地域史研究会幹事）
コーディネーター：菊地和博氏（「山形学」企画委員）

◆プログラム

13	：	30	講座「最上の歴史的成り立ち」
13	：	35	伊藤氏講話
14	：	25	三浦氏講話
15	：	15	休憩（10分間・質問票回収）
15	：	25	質疑応答
15	：	50	コーディネーターまとめ
15	：	55	次回現地学習事務連絡
16	：	00	終了

- ◆参加者数：49名

- ◆主催：公益財団法人山形県生涯学習文化財団 後援：山形県教育委員会

◆当日の様子

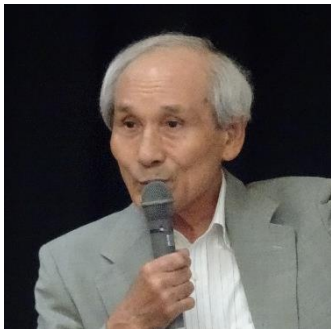
伊藤氏は、247年間にわたり最上の地を治めた戸沢氏の歴史と、これまであまり知られてこなかった戸沢藩で保護・奨励された馬産について、豊富な資料を基にわかりやすく紹介してくれました。受講生からは、初めて知ることばかりで大変勉強になったとの言葉が多く寄せられ、繁殖用の雌馬を敢えて「駄馬」と呼び、良馬をカモフラージュしていた話など、歴史に埋もれていた最上の馬産にフォーカスしたお話は、受講生の興味・関心を大いに惹きつけて、最上の歴史に新たな一面をみせてくれました。

三浦氏は、ユネスコの無形文化遺産にも登録されている新庄まつりについて語っていただきました。新庄まつり発祥の歴史的時代背景を最上地域の気象・風土も交えて、詳しく解説してくれました。発祥のもととなった、最上地方をたびたび襲う飢饉の歴史やその有様を古文書から読み解き、三浦氏の迫力ある語りから、飢饉の情景がありありと目に浮かびました。そして祭りに込められた人々の祈りと意義も深く理解することができました。最上の知られざる歴史を学ぶ、大変有意義な講座となりました。

参加者の声

- これまで最上の歴史に触れたことがなかったので、初めて知ることばかりでとても興味深かった。まだ新庄まつりを見たことがないので、いずれ必ず見に行きたいと思いました。また、もう一つの歴史としての丸仏地蔵の話がとても良かったです。
- 最上地方が馬産地であることや新庄まつりの由来を知ることができて、大変勉強になりました。
- 講師の研究の深さにとても満足しました。
- 最上地方の江戸時代の姿について、多くの学びがありました。現在でも村山、置賜、庄内に対し、特徴的な姿をしている最上であるが、どのように現在に至るのか、近代以降の成り立ちについても関心を持ちました。
- 新庄・最上地区の昔の暮らしの話も新庄まつりの話もとても良かったです。馬産地の話も初めて知りました。
- 新庄まつり発祥のきっかけとなった飢饉の話を、初めて詳しく知りました。
- 講師の熱意が感じられる、実りの多い講座となりました。

○当日の様子



伊藤講師



三浦講師



菊地コーディネーター



受講生